

アートヴィレッジ 作品の特色、技法やさしく紹介

わたしたち

七宝少女が解説しますわ

名古屋芸術大学（北名古屋 市）の学生たちが、七宝焼作 品を擬人化したキャラクター 「七宝少女」を作成した。あ ま市七宝町の展示施設「七宝 焼アートヴィレッジ」に住 む、「妖精」として作品の魅 力を伝えていく。

（深世古峻一）

名古屋芸術大学（北名古屋 市）の学生たちが、七宝焼作 品を擬人化したキャラクター 「七宝少女」を作成した。あ ま市七宝町の展示施設「七宝 焼アートヴィレッジ」に住 む、「妖精」として作品の魅 力を伝えていく。

名古屋芸大生がキャラ作成



七宝焼アートヴィレッジに設置された 七宝少女のパネル。あま市七宝町で



七宝少女の制作プロジェクトに携わっ た山田さん、岩田さん、稲山さん 北名古屋市徳重の名古屋芸術大で

さんが施設側と意見交換しながら、少女たちに作品を解説させるアイデアを実現した。

七宝少女は四人。作品の特色に応じて、キャラクターを設定した。展示物の中で一番目立つ高さ約一・五メートルの取り花鳥文大花瓶は、元気で明るい主人公的存在として、鮮やかなピンク色を基調とした着物の少女にした。水墨画のようなシックな松の文様が印象的な「やげ地松文花瓶」は、銀色の髪をした、もの静かで、落ち着いた雰囲気少女となった。それぞれの少女の着物には作品の文様を連想させるデザインが施されている。

施設の作品前には、それぞれの少女が一人称で語る解説文を設置。キャラクターの個性を生かした文面で、作品の特色や技法を解説している。解説文を担当した稲山さんは「作品をきちんと見てもらえるよう、『ほら、よくご覧になって』というようなあおる文章を意識した」と語った。施設には写真撮影ができるよう、七宝少女のパネルもある。会員制交流サイト（SNS）への投稿を通じて多くの人の目に触れるよう、工夫を凝らした。山田さんは「取り組みを通じて七宝焼の奥深さを知ることができた。大勢の人の目に留まるキャラクターになってほしい」と期待した。